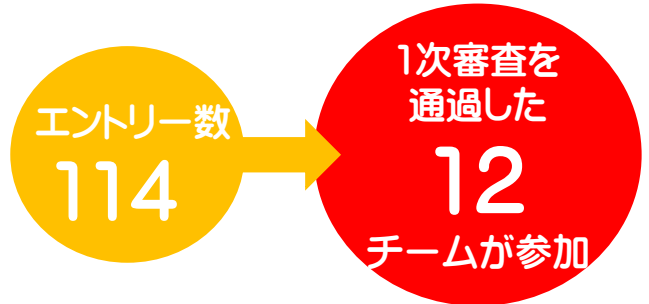


## SDGsQuest みらい甲子園 ～東海エリア大会～に参加

園芸科学科野菜専攻生が「SDGsQuest みらい甲子園～東海エリア大会～」に参加しました。SDGs (持続可能な開発目標)とは、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。このみらい甲子園は、さまざまな社会問題の解決に向けたアイデアを発表するコンテストで、東海3県から114のエントリーがあり、そこから選ばれた12チームが今回の東海エリア大会に参加しました。



私たちが提案したテーマは「有機キュウリでつなぐ未来～100年先の世代まで～」です。本校ではキュウリの有機栽培に長年取り組んでいます。これからは本校だけが有機栽培に取り組むのではなく、もっと地域へ発信していくことで、みんなでも有機栽培に取り組み、持続可能な農業生産の実現ができるのではないかと考えました。

### 1. 探究テーマとそれを選んだ理由

**農業の与える環境影響**  
空素肥料とリン肥料による海域への流入量は、遙かに許容範囲を超えている。  
これは、水域の富栄養化や亜酸化窒素による地球温暖化といった悪影響を及ぼす。  
また、化学肥料の使用により、土壌内の生態系のバランスが崩れ、土壌劣化が進んでいる。  
空素肥料の製造に必要な、石油や天然ガスといった原料となる資源は必ずしも枯渇する。

**持続可能な農業の実践が必要不可欠**  
持続可能な農業とは…  
→例えば有機農業

**日本の有機農業の現状**  
日本の耕地面積に対する、有機農業の取組面積の割合は0.2%  
1人当たりの年間有機農産物消費額は世界と比べるとまだまだ低い  
**生産者も消費者も意識が低いのが現状**  
・労働時間の増加、収益の低下  
・生産コストに見合う価格で取引してくれる販路の確保  
・有機JASマークの認知度が低い

**恵那農業高校の取組み**  
キュウリの有機栽培(約10a) 県内の高校で本校だけ!  
2009年に有機JASの認証を受けそれ以降、キュウリの有機栽培が引き継がれている。  
今後の農業を元気づえて 持続可能な農業の実践が必要不可欠と言われている今、本校だけで有機農業に取り組んでいてはもったいない。そこで、私たちの有機農業のノウハウを地域へ広め、有機農業について知ってもらうとともに、有機農業に取り組んでほしい。  
**私たちの活動で生産者と消費者の意識改革 持続可能な農業の実現**

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

### 私たちの取り組みで 達成を目指すゴール

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

17 パートナースHIPで目標を達成しよう

私たちはさまざまな体験活動を企画し、そのイベントを通して生産者、消費者の意識改革をしていきたいと考えています。

2. 「SDGsアクション」アイデアと「目標」



**Action1 有機栽培の継続**

これからも有機栽培を継続していきます。持続可能な農業生産は人だけでなく、地球上に存在するすべての生物、自然に配慮し、様々な課題解決につながるかと考えます。

2 持続可能な消費 (SDG 12) | 3 気候変動に具体的な対策を (SDG 13) | 6 安全な水とトイレの健全な確保 (SDG 6) | 8 豊かになる経済 (SDG 8) | 12 持続可能な消費 (SDG 12) | 13 気候変動に具体的な対策を (SDG 13) | 14 海の豊かさを守ろう (SDG 14) | 15 陸の豊かさも守ろう (SDG 15)

**Action2 有機栽培の発信** | **Action3 有機栽培の追求** | **Action4 栽培方法の改善**

本校の栽培方法をマニュアル化し、地域農家へ情報発信していきます。また、地域の方が参加できる有機栽培の体験活動を実施し、有機栽培への理解を深めます。

本校の有機栽培では、圃場内防草ができていません。さらなる有機栽培のレベルアップを目指していきます。例えば、キュウリの植物残渣を有効利用できないかと考えています。

有機栽培が普及していかない理由として、労働時間の増加、取量の低下があります。特にキュウリ栽培では管理作業の負担が大きいため、労力を減らした栽培方法、高収量な栽培システムの研究をしています。

2 持続可能な消費 (SDG 12) | 4 質の高い教育をみんなに (SDG 4) | 17 パートナーシップで目標を達成しよう (SDG 17) | 2 持続可能な消費 (SDG 12) | 7 安全で持続可能なエネルギー (SDG 7) | 15 陸の豊かさも守ろう (SDG 15) | 2 持続可能な消費 (SDG 12) | 4 質の高い教育をみんなに (SDG 4) | 8 豊かになる経済 (SDG 8)

3. 「SDGsアクション」を広める方法



**有機農業セミナーの実施**

本校の生徒が地域生産者に向けて、有機農業のセミナーを開催します。本校の栽培マニュアルを地域へ普及し、有機農業への取り組みを促します。また、有機認証を受けるに至らなくても、IPMの方法や、良い農業のやり方を参考にし、少しでも化学農薬の使用を減らしたり、自然への配慮を考えた農業へ変わっていくことを目指します。

**農業体験を実施(管理・取穫)**

地域の子どもから大人まで、農業に興味がある人が参加する農業体験のイベントを開催します。本校の圃場で普段の管理作業や、取穫体験を通して、農業の楽しさと大変さに触れてもらいます。またイベント時に有機農業に関するクイズを行うなどして、消費者の知識と意識の向上を目指します。

**「学校」×「市・県」×「地域」の連携**

**耕作放棄地等を活用し、シェア畑を開設し、みんなで有機栽培に取り組みます**

市内の耕作放棄地等を活用し、有機栽培のシェア畑を開設します。みんなで作付けを決め、みんなで有機栽培に取り組みます。

このシェア畑で培った、知識や技術を活かし、それぞれが自分の土地で有機栽培に取り組みます。

持続可能な農業の普及

～東海エリア大会の様子～

今回はzoomによるオンライン開催でした。12チームがそれぞれのテーマを発表し、その後表彰、一般視聴者も含めた交流会などが行われました。賞は、「SDGsアクション大賞」「アイデア賞」「矢作建設工業賞」の3つがあり12チームの中から3チームが選ばれました。



**有機キュウリでつなぐ未来**  
～100年先の世代まで～

SDGs QUEST  
みらい甲子園

学校名 岐阜県立志那農業高校  
代表者氏名 青山彩  
チーム人数 3人  
チーム全員氏名 青山彩、鈴木佑麻、樋田あゆみ

結果は。。。見事「矢作建設工業賞」を受賞することができました！今回の受賞を糧に、持続可能な農業生産の実現に向けて頑張っていきます！

**矢作建設工業賞**

受賞したプレゼン動画は、みらい甲子園のHPに公開される予定です。他のチームの発表も視聴できるので興味のある方はぜひご覧ください。持続可能な社会の実現に向けて活動は続きます！

